

迷惑撮影対策に関するヒアリング調査結果の報告

山元康平（日本陸上競技連盟 指導者養成委員）

日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）では、アスリートが安心して競技に取り組めるより良い環境づくりを目指し、迷惑撮影対策（※1）に関する実態調査を2024年3月に実施した。今回の調査は、前回の調査（2021年1月実施）から一定期間が経ち、更には感染症対策等による活動の制約が解放されるなど社会的変化が生じた今、迷惑撮影に関する実態がどのような状況かを知ることが目的に指導者を対象として行った。本報告では、調査結果の自由記述の回答を中心に報告する。

※1 迷惑撮影とは

被写体に了解を得ずひそかに撮影を行うこと（隠し撮り）のみならず、高性能カメラを使用して性的目的の撮影をすることを指す。

【調査概要】

本調査は日本陸連公認コーチ資格の有資格者（公認スタートコーチ、公認ジュニアコーチ、公認コーチ）を対象に、2024年3月に実施した。回答数は555（男性481、女性69、無回答4）であった。回答者のうち13.5%が迷惑撮影の被害経験があった。

【自身のチームの選手が被害にあわないために意識していることや心掛けていること】

48%が「ある」と回答し、「ユニフォームやウェアの対策」が最も多かった（約40%）。また、「選手や保護者への注意喚起」「不審者への警戒」に関する回答も多かった（約30%）。練習等の競技会以外の場面では、「1人で行動させない」といった行動に関する注意や、「更衣室を利用させる」「更衣用テントを使用する」といった更衣に関する注意、「部外者を立ち入らせない」といった回答がみられた。

【選手のSNSやチームのホームページへの画像掲載について注意をしていること】

44%が「ある」と回答し、画像の選定や加工（個人を特定できないようにする、画質を落とす、モザイク等）、本人や保護者に確認や同意書を求めるといった回答や、そもそもSNSやホームページを利用しない、画像を掲載しない、公開範囲をチーム内のみなどに限定しているという回答も少なくなかった（それぞれ約30%）。

【迷惑撮影対策について競技運営側に求めること】

「競技会における撮影や公開のルールの明確化」（約40%）および「競技会における巡回や取り締まりの強化」（約30%）に関する回答が多かった。「ルールの明確化」について、ルールの厳格化を求める意見が多い一方で、指導者や保護者の撮影に配慮を求める意見も少なくなかった。また、「取り締まりの強化」について、巡回の強化や警察との連携を求める意見が多かったが、人手不足や経費の問題、迷惑撮影の判断基準等の具体的な問題に関する意見もみら

れた。さらに、「注意喚起や通報フォーム等による観客との連携」「実際の被害状況や問題となる場面に関する情報共有」といった観客等が協力できる環境の構築に関する意見や「公式の配信の映像にも配慮が必要な場面がある」等の指摘もみられた。

【調査結果】

今回の調査から、迷惑撮影等に関する指導者や運営が実際に感じている問題や対策の実態について示すことができた。今後は、指導者、アスリート、競技会運営および日本陸連が相互に協力し、陸上界全体のより良い環境づくりに向けて協力して組んでいくことが必要であると考えられる。

本報告を踏まえ、日本陸連指導者養成委員会では、指導者が感じている課題に寄り添い、アスリートのみならず、指導者にとっても安全・安心な環境を作っていけるようサポートをしていきたい。

表 指導者が迷惑撮影や画像掲載に対して意識していることや運営側に求めること

自身のチームの選手が被害にあわないために意識していることや心掛けていること
「セパレート型ユニフォームを廃止した」「透けにくいユニフォームやウェアを使用する」「下着の色に配慮する」「競技後すぐにTシャツ等を着用しユニフォームで移動しない」「選手や保護者への注意喚起」「不審者への警戒」
選手のSNSやチームのHPへの画像掲載について注意をしていること
「個人が特定できない画像の使用（顔を出さない、遠くからの画像、氏名や学校名を消す）」「女子選手や肌の露出が多い画像は掲載しない」「画質を落としたりモザイク処理する」「本人や保護者に確認や同意書を求めるといった回答」「そもそもSNSやHPを利用しない、画像を掲載しない、公開範囲をチーム内のみなど限定」
迷惑撮影対策について競技運営側に求めること
「競技会における撮影の禁止や難し可制」「インターネット上の公開のルールの明確化や法整備」「マージャー等の巡回を担当する審判の増員や巡回の強化」「警察との連携」「注意喚起や通報フォーム等による観客との連携」「実際の被害状況や問題となる場面に関する情報共有」「保護者の記録やコーチングの資料のために撮影は必要であるため全ての撮影を制限することは好ましくない」「陸上競技の発展のためにも撮影は一般ファンの権利」「人手不足で審判員の増員は困難」「増員のための経費の支援が必要」「関係者の撮影と迷惑撮影を判別することが困難」「主催者や警察が厳正に対処してくれないことがあった」「公式の配信の映像にも配慮が必要な場面がある」

〈陸上安全ナビ公開のお知らせ〉

すべての人がすべてのライフステージにおいて、スポーツを楽しめるように、練習環境、迷惑撮影、ハラスメント、アンチドーピング等の「安全・安心」に関する情報を掲載しています。

陸上安全ナビ 